

令和4年度（2022年度）

京都市立芸術大学 美術学部

入学試験問題

京都市立芸術大学

Kyoto City University of Arts — founded in 1880 —

目 次

描写	1
描写対象物（画像）	2
色彩	3
色彩解答用材料（画像）	4
立体	5
立体解答用材料（画像）	8
小論文	9
出題の意図、評価のポイント、受験生へのメッセージ （描写・色彩・立体・小論文）	13

2022年度 実技試験問題

科目 描写

時間 9時00分～13時00分

与えられた軍手、金属ボウルを台紙上に配置し、鉛筆で描写しなさい。

●条件

1. 与えられたすべての対象物を描写すること。
2. 軍手1組(12双)は、ゴムバンドを外さず、かたまりのまま描写すること。
3. 軍手1双は自由に配置し、描写すること。
4. 対象物は切る、破るなど、破損をとまなう加工をしないこと。

【支給されるもの】

軍手1組(12双)、軍手1双、金属ボウル1個
解答用紙1枚、台紙1枚、カラーカード1枚

【使用してよいもの】

カルトン、カルトン用クリップ、鉛筆(色鉛筆は除く)
消しゴム(練り消しゴムを含む)、羽ぼうき(又はダスティングブラシ)
カッターナイフ(鉛筆削り用)

【注意】

1. 解答(作業)は着席したまま行い、他の受験生の迷惑とならないようにすること。
2. 忘れた用具の貸し出しはしません。
3. 解答用紙と台紙は同じものです。どちらを解答用紙にしても構いません。
4. 解答用紙は縦横、裏表いずれを使用しても構いません。
5. 試験終了15分前に、指示に従いカラーカードを解答用紙に貼りつけること。

【描写：対象物】



2022年度 実技試験問題

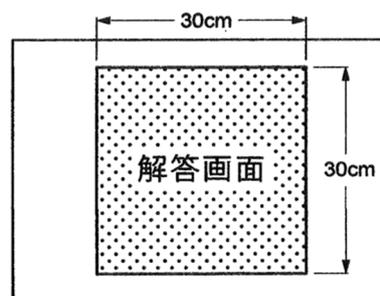
科目 色彩

時間 14時50分～17時50分

与えられた紙テープをよく観察しなさい。
その特徴を生かして、自由に色彩で表現しなさい。

●条件

1. 解答用紙は、横画面とし、表裏どちらを使っても良い。
2. 下図に示すように、解答用紙の中央に30cm×30cmの正方形を設け、それを解答画面とすること。
3. 観察のため紙テープは自由に加工しても良い。
4. 解答画面は不透明水彩絵具を使用し、全て彩色すること。
5. 余白部分には彩色しないこと。



【支給されるもの】

紙テープ1巻、画用紙 大(解答用)1枚、画用紙 小(試し塗り用)1枚、
A4上質紙(構想用)3枚、カラーカード1枚

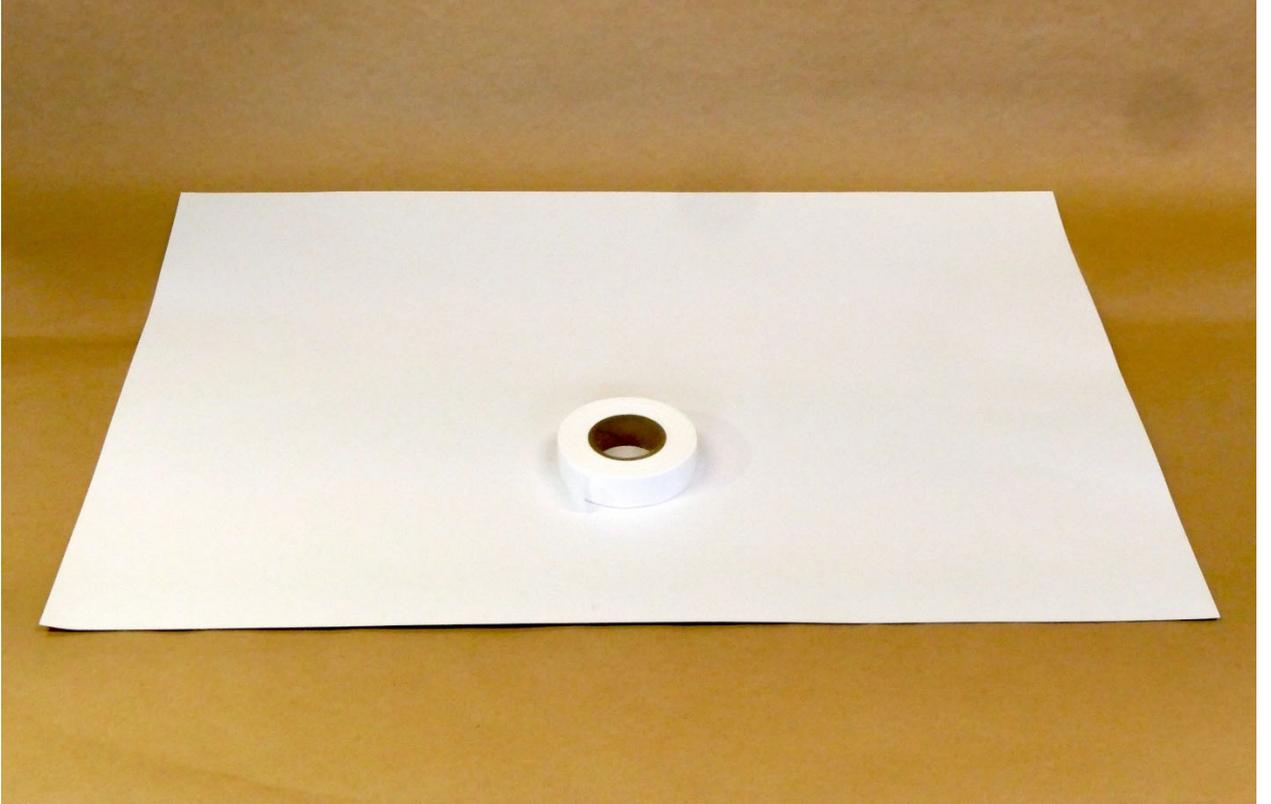
【使用してよいもの】

不透明水彩絵具、直定規(60cm以内、目盛付き)、三角定規(30cmのもの1組)、
分度器、コンパス、カッターナイフ、はさみ、鉛筆、消しゴム(練り消しゴムを含む)、
筆、筆洗、パレット(又は絵具皿)、カルトン(56cm×40cm以上)、カルトン用クリップ、
羽ぼうき(又はダスティングブラシ)、雑巾

【注意】

1. 解答作業は着席したまま行い、他の受験生の迷惑とならないようにすること。
2. 彩色作業はできるだけカルトンの上で行うこと。
3. 忘れた用具の貸し出しはしません。
4. 試験終了15分前に、指示に従いカラーカードを解答作品に貼りつけること。

【色彩：解答用材料】



2022年度 実技試験問題

科目 立体

時間 9時00分～12時00分

テーマ 「100,000,000年後に生きる虫」

上記のテーマから自由に発想し、
与えられた紙ストロー、不織布袋、ケント紙、光沢紙を材料にして
下記の条件に従って立体作品を作りなさい。

●条件

1. 解答作品には、解答用材料として、紙ストロー、不織布袋、ケント紙、光沢紙を使用すること。
2. 支給された解答用材料は必ず全種類使用すること。
ただし解答用材料はすべて使いきらなくてもよい。
3. 接着固定材料として木工用速乾接着剤と、仮止め用紙粘着テープ（青色）のみを使用すること。
ただし仮止め用紙粘着テープは、試験終了時には全て外すこと。
4. 解答作品は解答用台の上に設置すること。
5. 解答作品は解答用台（35cm×35cm）を、はみ出さず、また高さ35cmから、はみ出さないこと。
6. 解答用台および解答作品には描画・着色しないこと。
7. 解答用台は解答作品を接着・固定する以外は加工しないこと。
8. 試験終了後、解答作品に触れてはいけません。
各自移動用カバーをかぶせ、解答作品を持ち体育館の解答提出場所まで移動します。解答作品は持ち運びに耐えるように十分な強度を持たせ、解答用台にしっかりと接着・固定すること。
9. カラーカードは試験終了前に監督者の指示に従い解答用台の右前端に貼ります。

【支給されるもの】

解答用材料 : 紙ストロー100本、不織布袋4枚、ケント紙2枚、光沢紙1枚
接着材料 : 木工用速乾接着剤1個、仮止め用紙粘着テープ(青色)1巻
解答用台 : 茶色段ボール1枚(35cm×35cm)
移動用カバー : 茶色段ボール製箱1個、カバー固定用テープ2枚
制作支援用品 : 灰色ボール紙1枚(作業用)、上質紙3枚(アイデアスケッチ用)
カラーカード1枚

【使用してよいもの】

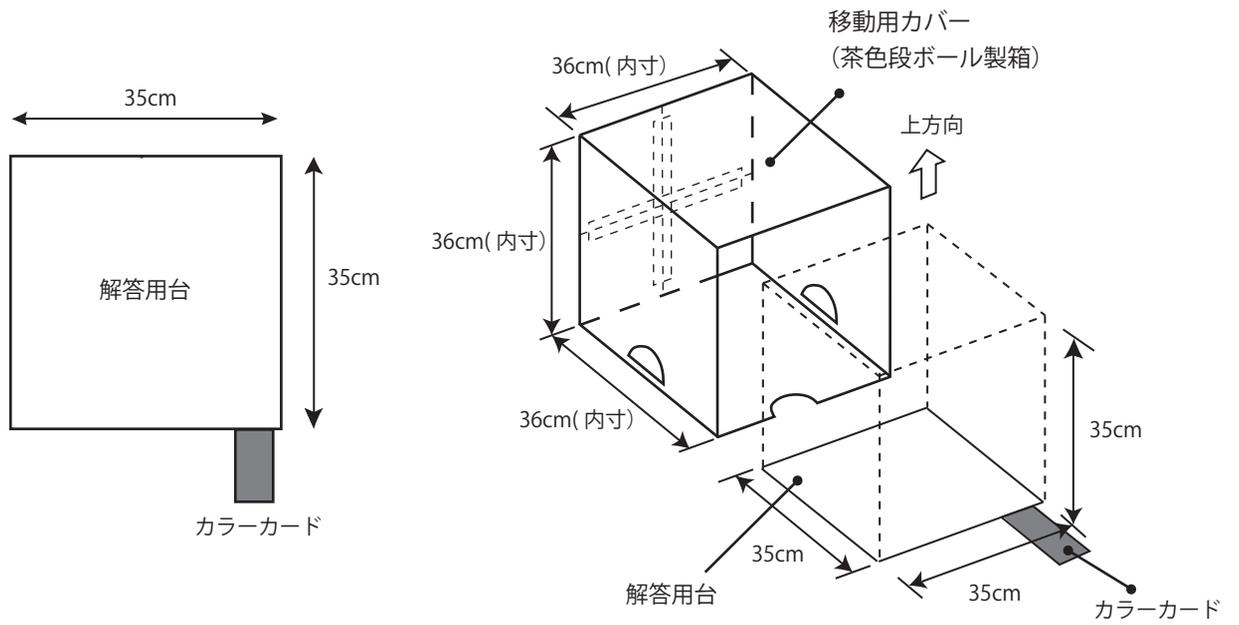
支給された解答用材料・接着材料及び、下記の立体受験用具

鉛筆、消しゴム(練り消しゴムを含む)、カッターナイフ、はさみ、分度器、
直定規(60cm以内、目盛付き)、三角定規(30cmのもの1組)、コンパス、
粘土へら、雑巾、ラジオペンチ(刃付のもの)、ボールペン(カラーカード記入用)

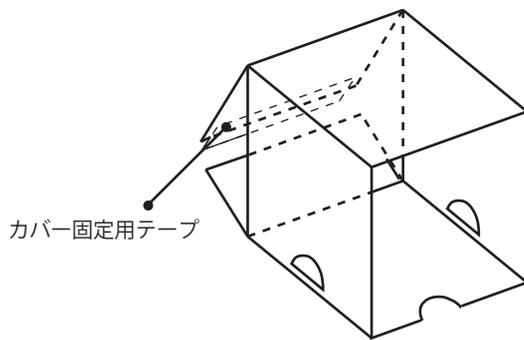
【注意】

1. 解答作品には、解答用材料として支給されるもの以外は使用しないこと。
2. 上質紙3枚は、アイデアスケッチ用として使用すること。
3. 解答(作業)は着席したまま行い、他の受験生の迷惑とならないように作業すること。
4. 作業は支給された灰色ボール紙の上で行うこと。
5. 怪我のないように慎重に作業すること。
6. 忘れた用具の貸し出しはしません。
7. 試験中に受験者同士で用具の貸し借りを行わないこと。
8. 試験終了15分前に、監督者の指示に従い、カラーカードを解答用台の右前端に貼りつけること。
9. 試験終了後、解答作品に移動用カバーをかぶせて解答提出場所まで移動します。移動中に解答作品に触れてはいけません。
解答提出場所に移動後、監督者の指示に従い移動用カバーを外して解答作品を提出すること。

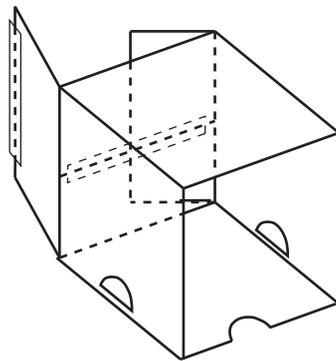
移動用カバー 組み立て説明



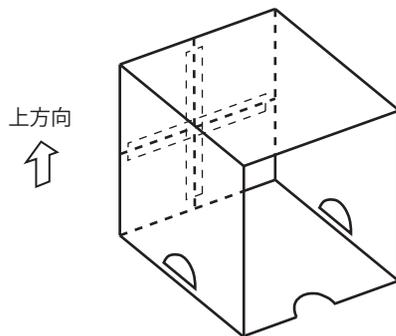
移動用カバー (茶色段ボール製箱) 組み立て順序 ①②③



- ① フタは上下を先に閉じる
カバー固定用テープを外側に貼る



- ② 左右を閉じる
カバー固定用テープを外側に貼る



- ③ 移動用カバー完成

【立体：解答用材料】



2022年度 総合芸術学科入学試験問題

科目 小論文(200点満点)

時間 14時50分～16時50分

別紙の問題文は、萩原朔太郎『郷愁の詩人 与謝蕪村』(1988年岩波文庫・初出1933年)から抜き出したものである。この文章を読んで、以下の設問に答えなさい。

設問1

問題文全体を250字以内で要約しなさい。(配点50点)

設問2

傍線部「蕪村について考える時、人間の史的評価や名声やが、如何に頼りなく当にならないかを、真に痛切に感ずるのである」について、同じようにあてはまると思われる蕪村以外の実例を挙げ、具体的に説明しなさい。(配点60点)

設問3

あなたが好きな芸術家について、ポエジイという言葉を使用して論じなさい。(配点90点)

(別紙は全3ページです)

《注意》

- ・ 答案用紙に受験番号・氏名をボールペンで記入してください。
- ・ 解答はすべて配布された答案用紙に記入してください。
- ・ 答案用紙は、罫線のある面だけを使用し、裏面は使用しないでください。
- ・ 答案用紙は横書きで使用してください。
- ・ 設問3の解答には、最初に「設問3」と明記してください。
- ・ 設問2および3の解答欄が不足する時は、追加の答案用紙を配布しますので、試験監督に申し出てください。その場合、追加の答案用紙にも受験番号と氏名を明記し、1枚目の答案用紙の最後に「2枚目に続く」と書いてください。さらに答案用紙を追加した時も「3枚目に続く」と記すなど、以下同様にしてください。

陽炎や名も知らぬ虫の白き飛ぶ

更衣野路の人はつかに白し

絶頂の城たのもしき若葉かな

鮒鮓や彦根の城に雲かかる

愁ひつつ岡に登れば花いばら

甲斐ヶ嶺や穂蓼の上を塩車

俳句というものを全く知らず、いわんや枯淡とか、洒脱とか、風流とかいう特殊な俳句心境を全く理解しない人。そして単に、近代の抒情詩や美術しか知らない若い人たちでも、こうした蕪村の俳句だけは、思うに容易に理解することができるだろう。何となれば、これらの句には、洋画風の明るい光と印象があり、したがってまた明治以後の詩壇における、欧風の若い詩とも情趣に共通するものがあるからである。

僕が俳句を毛嫌いし、芭蕉も一茶も全く理解することの出来なかった青年時代に、ひとり例外として蕪村を好み、島崎藤村氏らの新体詩と並立して、蕪村句集を愛読した実の理由は、思うに全くこの点に存している。即ち一言に言えば、蕪村の俳句は「若い」のである。丁度万葉集の和歌が、古来日本人の詩歌の中で、最も「若い」情操の表現であったように、蕪村の俳句がまた、近世の日本における最も若い、一の例外的なポエジイだった。そしてこの場合に「若い」と言うのは、人間の詩情に本質している、一の本然的な、浪漫的な、自由主義的な情感的青春性を指しているのである。

〈中略〉

蕪村は不遇の詩人であった。彼はその生存した時代において、ほとんど全く認められず、空しく窮乏の中に死んでしまった。今日僕らは、既に忘れられて名も知れなくなってしまう当時の卑俗俳諧の宗匠たちが、俳人番附の第一席に名を大書し、天下に高名を謳われている時、僅かその末席に細字で書かれ、漸く二流以下の俳人として、影薄く存在していた蕪村について考える時、人間の史的評価や名声やが、如何に頼りなく当にならないかを、真に痛切に感ずるのである。すべての天才は不遇でない。ただ純粹の詩人だけは、その天才に正比例して、常に必ず不遇である。殊に就中蕪村の如く、文化が彼の芸術と逆流しているところの、一の「悪しき時代」に生れた者は、特に救いがたく不遇である。

蕪村の価値が、初めて正しく評価され、その俳句が再批判されたのは、彼の死後百数十年を経た後世、最近明治になってからのことであった。明治以後、彼の最初の発見者たる正岡子規、及びそ

の門下生たる根岸派の俳人に継ぎ、殆んどすべての文壇者らが、こぞつて皆蕪村の研究に関心した。蕪村研究の盛んなことは、芭蕉研究と共に、今日において一種の流行観をさえ呈している。そして世の定評は、芭蕉と共に蕪村を二大俳聖と称するのである。

しかしながら多くの人は、蕪村について真の研究を忘れている。人々の蕪村について、批判し定評するところのものは、かつて子規一派の俳人らが、その独自の文学観から鑑賞批判したところを、無批判に伝授している以外、さらに一步も出ていないのである。そしてこれが、今日蕪村について言われる一般の「定評」なのである。試みにその「定評」の内容をあげて見よう。蕪村の俳句の特色として、人々の一様に言うところは、およそ次のような条々である。

一、写生主義的、印象主義的であること。

一、芭蕉の本然的なのに対し、技巧主義的であること。

一、芭蕉は人生派の詩人であり、蕪村は叙景派の詩人である。

一、芭蕉は主観的の俳人であり、蕪村は客観的の俳人である。

「印象的」「技巧的」「主知的」「絵画的」ということは、すべて客観主義的芸術の特色である。それ故に以上の定評を概括すれば、要するに蕪村の特色は「客観的」だということになる。そしてこれが、芭蕉の「主観的」に対比して考えられているのである。

ところで芸術における「主観的」「客観的」もしくは「主情主義的」「主知主義的」ということは、本来何を意味するものだろうか。これについて自分は、旧著『詩の原理』に詳しい解説を述べておいた。約言すれば、すべての客観主義的芸術とは、智慧を止揚したところの主観表現に外ならない。およそ如何なる世界においても、主観のない芸術というものは存在しない。ただロマンチズムとリアリズムとは、主観の発想に関するところの、表現の様式がちがうのである。それ故に本来言えば、単なる「叙景詩」とか「叙景派の詩」なんていうものは実在しない。もしあるとすればナンセンスであり、似而非の駄文学にすぎないのだ。いわんや俳句のような抒情詩——俳句は抒情詩の一種であり、しかもその純粹の形式である。——において、主観は常にポエジの本質となっているのである。俳句のような文学において、主観が稀薄であるとすれば、そのポエジは無価値であり、その作家は「精神に詩を持たない」似而非詩人である。

ところで一般に言われる如く、蕪村が芭蕉に比して客観的の詩人であり、客観主義的態度の作家であることは疑いない。したがってまた「技巧的」「主知的」「印象的」「絵画的」等、すべて彼の特色について指摘されるところも、定評として正しく、決して誤っていないのである。しかしながら多くの人は、これらの客観的特色の背後における、詩人その人の主観を見ていないのである。そ

してこの「主観」こそ、正しく蕪村のポエジイであり、詩人が訴えようとするところの、唯一の抒情詩の本体なのだ。人々は芭蕉について、一茶について、こうした抒情詩の本体を知り、その叙景的な俳句を通して、芭蕉や一茶の悩みを感じ、彼らの訴えようとしている人生から、主観の意志する「詩」を掴んでいる。しかも何と不思議なことに、人々はなお蕪村について無智であり、単に客観的の詩人と評する以外、少しも蕪村その人の「詩」を知らないのである。そしてしかも、蕪村を讃して芭蕉と比肩し、無批判に俳聖と称している。「詩」をその本質に持たない俳聖。そして単に、技巧や修辭に巧みであり、絵画的の描写を能事としている俳聖。そんな似而非詩人の俳聖がどこにいるか。

こうした見地から立言すれば、蕪村の世俗に誤られていること、今日の如く甚だしきはないと言える。かつて芥川竜之介君と俳句を論じた時、芥川君は芭蕉をあげて蕪村を貶した。その蕪村を好まぬ理由は、蕪村が技巧的の作家であり、単なる印象派の作家であつて、芭蕉に見るような人生観や、主観の強いポエジイがないからだと言ふことだった。友人室生犀星君も、かつて同じような意味のことを、蕪村に関して僕に語つた。そして今日俳壇に住む多くの人は、好悪の意味を別に、等しく皆同様の観察をし、上述の「定評」以外に、蕪村を理解していないのである。

蕪村を誤つた罪は、思うに彼の最初の発見者である子規、及びその門下生なる根岸派一派の俳人にある。子規一派の俳人たちは、詩からすべての主観とヴィジョンを排斥し、自然をその「あるがままの印象」で、単に平面的にスケッチすることを能事とする、いわゆる「写生主義」を唱えたのである。(この写生主義が、後年日本特殊の自然主義文学の先駆をした。今日でもなお、アララギ派の歌人がこの美学を伝承しているのは、人の知る通りである。) こうした文学論が如何に浅薄皮相であり、特に詩に関して邪説であるかは、ここで論ずべき限りでないが、とにかくにも子規一派は、この文学的イデオロギーによつて蕪村を批判し、かつそれによつて鑑賞したため、自然蕪村の本質が、彼らのいわゆる写生主義の規範的俳人と目されたのである。

今や蕪村の俳句は、改めてまた鑑賞され、新しくまた再批判されねばならない。僕の断じて立言し得ることは、蕪村が単なる写生主義者や、単なる技巧的スケッチ画家でないということである。反対に蕪村こそは、一つの強い主観を有し、アイデアの痛切な思慕を歌つたところの、真の抒情詩の抒情詩人、真の俳句の俳人であつたのである。ではそもそも、蕪村におけるこの「主観」の実体は何だろうか。換言すれば、詩人蕪村の魂が咏嘆し、憧憬し、永久に思慕したアイデアの内容、即ち彼のポエジイの実体は何だろうか。一言にして言えば、それは時間の遠い彼岸に実在している、彼の魂の故郷に対する「郷愁」であり、昔々しきりに思う、子守唄の哀切な思慕であつた。実にこの一つのポエジイこそ、彼の俳句のあらゆる表現を一貫して、読者の心に響いて来る音楽であり、詩的感情の本質を成す実体なのだ。

出題の意図、評価のポイント、受験生へのメッセージ

▶ 描 写

◆出題の意図

- ・金属ボウルと軍手1組（1 2双）と軍手1双という、大きさや形態の異なる対象物を複数出題することで、対象物の配置による画面構成の力を問いました。
- ・金属製で半球形のボウルと軍手1組（1 2双）と軍手1双を対象物として出題することで、正確に形や色を捉える力を問いました。
- ・金属製のボウルと軍手という編み物を対象物として出題することで、硬さ、柔らかさ、反射や映り込みといった質感を表現する力を問いました。

◇評価のポイント

以下の項目に留意し、描写力を総合的に評価しました。

- ・対象物の構成(対象物をバランスよく配置することができるか。)
- ・画面の構図(配置した対象物を効果的に画面に収めることができるか。)
- ・形態の把握(対象物の形や大きさを正しく描くことができるか。)
- ・量感の把握(対象物の量感を捉えて描くことができるか。)
- ・空間の把握(対象物間の距離や関係を正しく描くことができるか。)
- ・明暗の把握(対象物の陰影、固有色の明度を正しく描くことができるか。)
- ・質感の把握(対象物の素材感を描きわけることができるか。)
- ・画材と技法の理解(鉛筆、紙、消しゴムなどの描画材を生かしているか。)

■受験生へのメッセージ

今回の対象物は、身近で日常的に目にするものが中心です。まず、軍手1組（1 2双）は、大きく捉えると直方体の形態をしていますが、編み地による歪みや繊維の膨らみなど編み物特有の質感を備えたものなので、工業製品の規則性と同時にその柔軟な形状を捉えなくてはなりません。さらに軍手1双は、そうした軍手の特質に加えて、単体ならではの柔らかさによって、自由に形状を変化させ、配置することができます。

一方、金属ボウルでは、金属でできた工業製品としての正確な形態の把握が必要とされます。同様に、金属特有の鋭さや硬さに加え、反射や映り込みといった、形や色味に注意を払いながら描き進めていく必要があります。これら異なる質感の対象物同士を適切に配置させることで、お互いの存在を引き立て合う表現も可能です。同一平面上に対象物が置かれている机上の位置関係や、それぞれの描き込みも重要なポイントですが、配置や構図に取り組む際には、それぞれの対象物の形態や特徴をしっかりと観察した上で、明確な構成のプランを練ることも大切にしましょう。

▶ 色 彩

◆出題の意図

- ・紙テープを観察し、その特徴を生かした表現ができるかを問いました。

- ・正方形の画面に対しての構成力を求めました。
- ・受験生自身のもつ色彩に対する多様な感覚を求めました。
- ・不透明水彩絵具の特性を生かした表現を求めました。

◇評価のポイント

以下の項目に留意し、色彩表現力を総合的に評価しました。

- ・与えられた紙テープを観察し、その特徴を捉え豊かな色彩で画面構成できているか。
- ・画材と技法を理解し、実践することができているか。
- ・限られた時間の中で、計画的に制作できているか。
- ・出題の条件に対応できているか。

■受験生へのメッセージ

- ・明度と彩度についての理解を深めた上で、混色にも積極的にチャレンジし、自身のもつ色数を増やしておきましょう。
- ・色と色の美しい組み合わせや、それを効果的に見せる構成を多く見つけておきましょう。
- ・日常的に身の回りにあるいろいろなものに興味をもって、観察する目を養いましょう。
- ・画材の特性と技法をよく理解できるように様々な経験を積んでおきましょう。

➤ 立 体

◆出題の意図

「100,000,000年後」という遠い未来に「生きる虫」の姿・形などを自由な発想により想像し、与えられた素材の特性を生かしながら立体表現できるか、柔軟な思考と基本的な造形力を問いました。

◇評価のポイント

与えられたテーマと解答材料から、自由な発想で、遠い未来に「生きる虫」の姿・形などを想像し、立体表現することができるか。

解答用材料（紙ストロー、不織布袋、ケント紙、光沢紙）のもつ質感や形状・数量などの特性を生かし、想像した虫の姿・形に対応した素材の扱い方、構造、形態、配置・構成に工夫した立体作品を作ることができるか。

以下の観点から、柔軟な思考と基本的な造形力を総合的に評価する。

- ・読解力 出題文の意図を読み取り、出題条件に即した作品になっているか。
- ・発想力 自由な発想で、遠い未来に生きる虫の姿・形などを具体的に想像することができるか。
- ・工作力 素材の質感・形状・数量の特性を生かし、想像する形態に適した構造や工程・加工技術で制作できるか。
- ・表現力 想像した「生きる虫」の姿や動きなどを、素材や形に置き換えて立体表現できるか。
- ・構成力 設定された条件サイズの空間内に立体作品を効果的に配置・構成しているか。

■受験生へのメッセージ

100,000,000年後という遠い未来は、全く想像を超えた未来です。だからこそ自由に発想し、様々なアイデアが生まれる可能性を秘めていると考えました。

未来を想像するには、過去から現在に至るモノの成り立ちを知ることや、身の回りの物事の観察や興味が手助けになるでしょう。空想や物語なども想像のヒントになるかもしれません。日頃から自分たちの生きる世界を様々な角度から観察し、気づきや考えを深めることは創造的な感性を養うことへとつながります。そしてそこから、知識や常識を超えた発想も生まれてくる可能性があるのです。

今回の試験では、遠い未来の世界に「生きる虫」を自由に発想し、虫や生き物の特徴を想定しながら、素材の特性を生かした作品を作ることを問いました。自身の想像したものを形にすることは、たくさんの工程を経て成立します。実際に色々な素材に触れ、組み合わせることで、様々な発見があるでしょう。言葉や素材に触発されながら、モノを作る楽しみや喜びが作品に表れてくることを期待しています。

▶ 小論文

◆出題の意図

設問1

他者の書いた文章を読んでその内容を的確に理解する文章読解力、ならびにその内容を要約として提示する言語表現能力を問いました。

設問2

まず、問題文の意図するところが正確に読みとれているかどうか。次にそれに類する事例を自らの芸術についての知識から挙げるができるかを問いました。

設問3

問題文の中のキーワードである「ポエジイ」が理解できているかどうかを、蕪村以外の例で説明することによって見る問題です。理解力に加えて応用的な文章表現力を問いました。

◇評価のポイント

設問1

まず、問題文の趣旨を伝えるために必要な要素が盛り込まれているかどうか。次に要約を単独で読んだ時に文章としてわかりやすいかどうか、という観点から評価しました。

設問2

「人間の史的評価は当てにならない」ということを、問題文で示された蕪村の状況に沿って理解することを求めています。したがって、単に歴史的な事実の認識に錯誤があった例ではなく、過去には低い評価であったが後世に非常に高く評価された芸術家（そ

の逆でも可) の実例を、自らの知識の中から紹介できているかどうかを評価しました。

詩人に限らず、どんな分野の芸術家でも問題ありませんが、できるだけ具体的で内容豊富な記述を求めています。

設問3

ポエジイとは直訳すれば「詩情」ですが、ここでは芸術がもつ「情趣」全般が対象となります。そして一見写生的な蕪村の中にも豊かな情趣があるという筆者の趣旨に従えば、わかりやすいロマンチズムだけがポエジイではないということは理解できるはずです。解答者それぞれの好きな芸術について、その核心をなすものは何なのかということ掘り下げた考察ができているかを評価しました。また、ここでも具体的でかつ説得的な文章が書けていることが重要です。

■受験生へのメッセージ

総合芸術学科で学んでいく上で必要になるのは、何とんでも芸術に対する強い興味と関心です。知識の広汎さはもちろん必要ですが、まずは自分の好きなものについてのこだわりや、その良さはどこにあるのかという探究心、さらにそれを人にも伝えていきたいという意欲が求められます。日頃から多様な芸術に触れ、ただ見るだけでなく深く考え、言葉で表現することを心がけるようにしましょう。その際、「比較」や「類比」の視点が大切であることを、この試験問題からも汲み取ってほしいと思います。

2022 年 4 月

京都市立芸術大学 事務局 入試担当

〒610-1197 京都市西京区大枝沓掛町 13-6

Tel 075-334-2238

Fax 075-334-2281

<https://www.kcua.ac.jp>